

Errors in English produced in communication through keyboards

Suzuki Yubun
Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

<https://doi.org/10.15017/1345512>

出版情報：英語英文学論叢. 57, pp.1-13, 2007. 九州大学英語英文学研究会
バージョン：
権利関係：

文字チャットにおける英文の誤用について

鈴木 右文

1 導入

筆者は、2000年度から2006年度前期にかけて、PCのキーボードからの文字入力によるオンラインコミュニケーションを利用した英語対話演習授業を実践してきた。本稿は、こうした文字チャットによる英語対話演習で残された対話ログに見られる誤りを抜き出して整理することと、文字チャットに特徴的なものを選び出して指導に活かすことを目的とする。

なお本稿は、平成17-18年度の科学研究費補助金基盤研究(C)「即時的文字チャットで英語学習者が産出する英文の特徴と改善点に関する研究」(課題番号17520382)による支援を受けている。

2 使用したチャットシステム

使用したチャットシステムは、3次元仮想空間チャットシステムで、仮想空間内でユーザの化身であるアニメーションキャラクター(アバタ)を操り、出会った相手、もしくは教員に割り与えられた相手と文字ベースの対話を交わすものである(<http://www.3d-ies.com>を参照)。2006年11月24日(午後11:00-11:30)にNHK総合テレビで放映された「英語でしゃべらナイト」でも登場した。

3 観察対象の授業

本稿で考察対象とする対話のログは、2005年度後期経済学部2年と2006年度前期工学部2年のインテンシブ英語演習Ⅱのものである。前者は25名程度、後者は8名程度で実施された選択必修少人数制の演習で、幾つか用意された授業の中から自身の好みに応じて選択するものである。前者は希望者が多くて抽選となったのに対し、後者は定員以下の希望しな

かった上、能力別クラス編成のため、工学部生のうち成績が上位約5割の者だけが選択することを許された。本稿ではこれらの授業において受講者が残したログを観察対象としたが、紙数の都合で、それらをすべて掲出することはできない。しかし観察の際には、すべてのログを吟味し、該当する事項をほぼ網羅的に抽出した。但し、英文としての誤りの種類別に整理したものの、どのカテゴリーに当たるのかという点と、発せられた英文1つ1つが誤りに該当するかどうかの判断については、主観が入っていることを否定できない。

なお、2005年後期の授業については、大学英語教育学会授業学研究委員会編著による2007年刊行のDVD付書籍『高等教育における英語授業の研究 授業実践例を中心に』（松柏社）に動画付きで紹介されている。

4 観察された不具合と指導ポイントの考察

観察された不具合の項目を整理したものは以下のとおりである。スペースの関係で、観察例は必要と思われる箇所だけに付すこととしているので、全体像は本稿のものになっている科研費の研究報告書を参照されたい。書き言葉であればこそ多く見られると考えられるものの中で、即時的文字チャットに特徴的ではないかと想像されるものについては下線を施して例を付した。いずれも筆者の主観ではあるが、7年近くにわたって文字チャットによる英語対話演習を指導した結果である。その下線が施されたポイントに基づいて文字ベースの対話演習における指導がなされるのが好ましいものと思われる。

4. 1 文字入力上のミス

a) あるべきものがない

1 : コンマ脱落、2 : 疑問符脱落、3 : ハイフン脱落 (*so-so>soso*)、4 : アポストロフィ直後のsの脱落 (*That'good*)、5 : コンマの後にスペースを空けない、6 : ピリオドの後にスペースを空けない、7 : 2文並列コンマもなし (*Japan is volcano island that's why there are a lot of hot spring.*)

b) ないはずのものがある

1 : ピリオドの前にスペース、2 : コンマの前にスペース、3 : 語中にスペース (*It is not good.*)、4 : 動詞句接続にコンマ、5 : ピリオド類のだぶり

c) 取違え

1 : 大文字のかわりに小文字、2 : 節頭小文字のかわりに大文字、3 : 文頭大文字のかわりに小文字、4 : 小文字のかわりに大文字 (*ME too.*)、5 : コンマのかわりにピリオド、6 : 2文並列=セミコロン¹⁾のかわりにコンマ、7 : 調べた表現の転記ミス、8 : アポストロフィのかわりにコンマ (*No, I didn,t.*)、9 : アポストロフィがシングル²⁾のかわりにダブル (*What's the matter with you?*)

これらはいずれも書き損じによるものだが、下線を施したものは、推敲を伴う提出物としての英作文などではまず見られないものである。チャットでこれらが生起してしまうのは、まさにそれがキーボード入力に依存しているからであり、発信者の句読法の不勉強というわけではなく、入力した本人もその場では気がつかないことが多いのである。

従ってこれらは放っておけば繰り返されるミスであり、授業の導入の段階からこのような例を示し、意識させるべきであろう。しかしながら相手に発話の意図が誤って伝えられるようなミスではないので、過度に警告して萎縮させるべきではない。

4. 2 文法上のミス

a) 句読法の誤り

1 : 2文並列コンマで接続、2 : *but*の前でなく後にコンマ、3 : *say*の後にカンマなしで直接引用、4 : *because*の後にコンマ

4.1での誤りは入力時のうっかりミスである可能性が高いのだが、こちらは句読法の理解不足が原因と思われる。

b) 冠詞の誤り

- i) 不定冠詞、1 : 可算名詞単数形で不定冠詞脱落、2 : 不可算名詞に不定冠詞、3 : 固有名詞に不定冠詞 (*I hear that you enter a Kyushu University.*)
- ii) 定冠詞、1 : 定冠詞の脱落、2 : 初出名詞に定冠詞、3 : 余計な定冠詞 (*I think the mercy killing is the identical with the murder.*)
- iii) 定不定の取違え

ここでの2例は、少しでも推敲すれば発見できるミスと思われ、リアル

タイムチャットだからこそ人の目に触れてしまったものと言えるだろう。チャット授業での指導としては、入力後送出する前に一目入力したものを眺め、違和感がないかどうかをせめてチェックするようにということになろう。なお因みに、加算名詞単数形での不定冠詞脱落は、ミスなしの箇所の方が少ないくらいだが、推敲の機会が保障されている英作文の提出課題でも似た傾向にある。冠詞は日本語にないために頻繁に誤ることとなる。

c) 数の誤り

1 : 不可算名詞の可算扱い、2 : 単数形にすべし、3 : 複数形にすべし、4 : 形容詞の加算不可算の区別が修飾先名詞と合わない

数に関する不具合も、リアルタイムチャットに限らず書き物一般に多々見られる。これも送信直前のチェックで修正されることが好ましい。数による形態の変化も日本語にはないために誤りを防止しにくい。

d) 品詞の取違え

1 : 形容詞のかわりに名詞、2 : 名詞のかわりに形容詞 (*It is good for educational*)、3 : 副詞のかわりに形容詞、4 : 形容詞のかわりに副詞、5 : 名詞のかわりに動詞、6 : 動詞のかわりに名詞 (*I want to marriage with Ms.rom seriously*)、7 : 形容詞のかわりに動詞 (*You must be fit our company*)、8 : 動詞のかわりに形容詞、9 : 副詞のかわりに名詞、10 : 名詞のかわりに過去分詞、11 : 形容詞のかわりに過去分詞

品詞の取違えは文法力不足が主原因だが、下線の項目に関しては同時チャットが関係していると考えられる。d2 では *purpose* のような被修飾語が欠如し、d6 では *contract* のような動詞が欠如し、d7 では *be fitting for* のかわりにより短い動詞の *fit* を使用したものと思われ、いずれも短時間で入力をすませようという焦りのなせる業と考えられる。

指導としては、品詞を意識し、短く切り上げようとあわてないように、ということになろう。

e) 動詞の形式の取違え

1 : 動名詞のかわりに原形 (*You should stop make it!*)、2 : 原形のかわりに動名詞、3 : 原形のかわりに過去分詞、4 : 原形のかわりに過去形、5 : 過去形のかわりに過去分詞、6 : 現在分詞のかわりに原形 (*I'm enjoy my campus*)

life)、7: 現在分詞のかわりに過去形、8: 現在分詞のかわりに過去分詞、9: 過去分詞のかわりに原形 (*Have you ever have a sushi?*)、10: 過去分詞のかわりに現在分詞、11: 動名詞と不定詞 *to* の混在

動詞の変化形のかわりに原形が使われる誤りは、リアルタイムの対話の原因になっており、短時間での入力をとあせる中で、複雑な形式より原形が無意識に使われるものと思われる。逆に原形が正しいのにより複雑な形式が選ばれているケース (e2, e3, e4) もあるが、それぞれ1つか2つの例しかなく、8例ある e1 や5例ある e9 より少ない。

従って動詞が原形でよいのかどうかに留意するように指導することが必要だということになる。

f) 他動自動の取違え

1: 自動詞を他動詞と取違え、2: 他動詞を自動詞と取違え

自動詞を他動詞的に使用した例が10あるが、そのうちの9つが「自動詞+前置詞」の前置詞を飛ばした例 (*So he returns his town.*) であり、無意識に語数を節約したのではないだろうか。逆に他動詞を自動詞的に使用した例は3つしかなく、それも前置詞を加えた例は1つだけ (*So they seldom telephone to me.*) で、残る2例は *it should be revised* を *it should revise*, *make ourselves at home* を *make at home* としたむしろ語数節約の例である。

指導点としては、これらの誤りをまとめてカバーするものではないが、前置詞が脱落していないかどうかに注意するということになるであろう。

g) 代用表現の誤り

1: *there* を代名詞と捉える、2: *one* 関係の誤用、3: 動詞句代用表現の誤用、4: 副詞類代用表現の脱落、5: 人称の混同、6: 所有形容詞の脱落、7: 格の混同、8: 代名詞を *s* で複数形に、9: 代名詞を *s* で所有形に、10: 再帰形の誤用、11: 代用表現のだぶり、12: 状況の *it* の誤用、13: 指示の誤り、14: 人称代名詞の語順の誤り

g4 (*A famous teacher teach in Tokyo univerusity, so I want to go.*)、g6 (*I was wandering around alone and I visited friend's shops.*) の2つが語の脱落で語数節約の結果になっており、リアルタイムチャットでの誤

りの例に見えるが、推敲の機会がある作文課題でも同様の誤りがよく見られるため、同時対話に特化された注意点とは言えないようにも思う。

h) 疑問文の誤り

- 1 : 疑問詞選択の誤り、2 : *do* の脱落、3 : 付加疑問の誤り、4 : 間接疑問を主節疑問文と同型にする誤り、5 : *wh* 移動の欠如、6 : *do* の過多、7 : 助動詞と本動詞で過去形がだぶる、8 : 助動詞でなく本動詞が過去形を担う誤り、9 : 主語のだぶり

いずれもライティング一般に観察される誤りのように思われるが h9 (*Will you be you happy?*) だけは提出された作文課題で見たことがない。しかし 1 例だけのことであり、特に指導ポイントとして注目すべきことでもないように思われる。

i) 態の誤り

- 1 : 受動態のかわりに能動態、2 : 能動態のかわりに受動態、3 : 自動詞を受動態に、4 : 受動態の誤用、5 : *by* の脱落

i1 (*this is a tool which use for removing hair.*) は、能動態よりも受動態の方が形態上複雑なので、受動態であるべきところを能動態とし、ある意味で節約をはかったために生じる誤りであると考えられる。9 例を数えるので、注意を喚起すべき点であろう。

j) 相の誤り

- 1 : 完了形にすべし、2 : 過去基準時のない過去完了形、3 : *been* と *gone*

k) 時制の誤り

- 1 : 過去形のかわりに現在形、2 : 現在形のかわりに過去形、3 : 主節と従属節の時制が反対

j1 (*My mother becomes seriously ill.*) も 9 例を数え、注意喚起が必要と考えられる。完了形は現在形に比べて複雑であるため、現在形の方がある意味で節約になる。k1 (*When I went to suburb, I'm very tired.*) も 13 例を数え、j1 と同様であると考えられる。

l) 補文標識の誤り

1 : *what* と *that* の取違え、2 : 必要な *that* の脱落

m) 仮定法の誤り

1 : 片方の動詞が仮定法でない、2 : 仮定法にしていない、3 : 仮定法の必要がない、4 : 過去・過去完了の取違え

n) 語順の誤り

1 : 副詞の位置、2 : 人称代名詞、3 : 否定辞の位置、4 : 形容詞、5 : 修飾被修飾

o) 極性の誤り

1 : 肯定否定の取違え、2 : *too* と *either* の取違え、3 : 否定極性要素の肯定文での使用、4 : *yes* と *no* の取違え、5 : *not* と *no* の取違え

p) 関係節の誤り

1 : 人称代名詞を先行詞に、2 : 余計な *what* (*So China grows up less than what we think.*)、3 : 余計な前置詞 (*This is a tool with which use for writing or drawing.*)、4 : 関係詞の品詞の誤り、5 : 主格関係詞の省略

これらはライティング一般で観察される不具合であるので、チャット対話での指導ポイントとは言えない。仮定法は学生にとって鬼門の一つである。*too/either* の取違えは目立つ。

q) 比較の誤り

1 : 比較級タイプの取違え、2 : 二重比較級、3 : 二重最上級、4 : 誤った *more than* (*And the wagon can take the person more than the sedan.*)、5 : *better than* の作り損ない (*I like better summer than winter.*)、6 : 比較級に定冠詞
7 : *the*+比較級の誤用、8 : 比較級のない比較 (*I like the cold than the heat.*)
9 : 比較級を *so* で修飾、10: 形容詞と副詞の取違え (*We must make profit more.*)

比較も鬼門で、様々の誤りが見られる。q1 では比較級をすべて *more/most* 型としており、過剰な単純化による一種の節約のケースにも見えるが、逆に二重比較級 (*Surely, but that school is more stronger.*) も見られるので、単に混乱しているだけという見方の方が合っている。

r) 存在文の誤り

1 : 固有名詞に使用、2 : *there* と *that* の取違え

s) 使役の誤り

1 : 完了形と取違え (*I have stolen my car yesterday.*)、2 : 使役動詞の選択の誤り

これらもチャットに限ったことではない。

t) 脱落

1 : SVOのO、2 : SVOCのC、3 : SVOOのO、4 : SVCのC、5 : 意志未来の *will*、6 : *let's* (*I often cook by myself. - Sounds good! Cook together next time!!*)、7 : *some/any* (*But, I don't go abroad now. Do you know other way?*)、8 : *so* (*I think other classes is very boring. Do you think?*)、9 : 本動詞 *do* (*all we have to is to learn ethics.*)、10: 主格関係代名詞、11: *be* (*What your name?*)、12: 前置詞目的語 (*I want to live in the country. - I don't live in. It's too inconvenient.*)、13: 前置詞 (*Please come my hospital.*)、14: 本動詞 (*Japan should all her heart into making peace.*)、15: 名詞、16: 3単現の *s*、17: 不定詞 *to*、18: 受動態の *by* (*Capital will be visited many people.*)、19: *a(n)* (*I like a active person.*)、20: 比較級形態素 (*Because it is fast than Sinkansen.*)

ここまで見てきたことからすると、脱落はチャットでの誤りと呼ぶにふさわしいものであるが、動詞の下位範疇化などに留意させるのは意味のある指導であろう。但し、ひとつひとつのケースがチャットの特徴と言えるかという、そう言えるのはうっかりミスも甚だしい上記下線のもの和本稿では考えておく。下線以外は、書き物一般で観察される。

u) 不完全文 (*Do you know how hard to grow rice?*)

これはチャットならではであろう。推敲すれば真っ先に気がつくような不具合である。

v) 重複

1 : 決定詞 (*A Softbank's game is more interesting than an Avispa's game.*)、2 : 接続表現 (*Even though if we go there taking so long time, we must be tired even before we get there.*)

v1 はチャットに限ったことではなく、文法の知識不足によるものであるが、v2 は注意すれば避けられるミスである。

w) 余計

1 : 前置詞 (*People who have about some abilities, professors teach them easily.*)、2 : 動詞 (*It is important how to live is ,not living a long time.*)、3 : 補文標識 (*So,do you know that the reason the father got angry?*)、4 : 3単現の *s*、5 : 不定詞 *to* (*I want to it.*)、6 : *let's*直後の *-ing* (*OK!! Let's talking!*)

4を除けば、これらはチャットならではの混乱であろう。

x) 取違え

1 : *be* と *have*、2 : *be* と動作動詞、3 : 動作と状態、4 : *be* 動詞と *do* 動詞 (*Do they good?*)、5 : *still* と *till* (*Can not you wait to have it still you are enter the junior high school*)、6 : *answer* と *ask* (*Thank you for asking my question.*)

y) *do* の誤用

単純ミスであり、チャットだからこそと見えるのだが、実は推敲してもなかなか直らない。特に *Our office is a sociable atmosphere.* のような *have* のかわりに *be* を用いる例はよく見られる。しかし 4-6 はあまりにひどく、チャットの即時性が災いした例と言えよう。

z) その他

1 : *be of*+ 抽象名詞の *of* 脱落、2 : *the*+ 形容詞を単数の存在に使用、3 : 固有名詞の普通名詞化の誤り、4 : 従属節の誤った独立、5 : 無理な等位構造 (*I only send and call e-meils to my friends and my families.*)、6 : 無理な *tough* 文、7 : 内容節の作り損ない、8 : 命令文の作り損ない、9 : 譲歩文の作り損ない、10 : 繰上げ構文の作り損ない (*If Japan insists on peace, Japan seems that Japan is week.*)、11 : 構文混合 (*I think the man who have less motor nerve and muscle than women.*)

z5, z13 ともひどい誤りで、推敲を少しでもすればこうはならないと思われる。

4. 3 語法上のミス

抽出された誤りは、93 の個別語彙の語法、時刻表記、前置詞の選択に

関する誤りで、いずれも間違っ**て**覚えているのが原因と考えられ、チャットの即時性によるものではない。

4. 4 スペリングミス

1 : キーボード配列によるミス (*shoulsers*>*shoulders*)、2 : *s* のかわりに *c*、3 : *c* のかわりに *s*、4 : 分かち書き、5 : *xx* のかわりに *x*、6 : *x* のかわりに *xx*、7 : *l* のかわりに *r*、8 : *r* のかわりに *l*、9 : 音をスペルに直結、10 : 日本語読み (*haigh scool*>*high school*)、11 : 他の語からの干渉、12 : スペルの入換え、13 : 黙字の削除、14 : 余計 (*meeet*>*meet*)、15 : 脱落 (*relaed*>*related*)、16 : 脱落+余計、17 : 母音字交替、18 : 子音字交替、19 : *tial* のかわりに *cial*、20 : 逆行同化的 (*univercyty*>*university*)、21 : 2語融合、22 : 活用ミス、23 : その他

スペリングミスはライティング上のミスだが、少なくとも下線部5項目はチャットの即時性に起因するケアレスミスである。しかし入力**は**正確**に**という以外に指導方法はなさそうである。

4. 5 存在しない語の創出

unconvenient, beated, mismark という3つの例があった。いずれもその存在を信じ込んでいるならチャットに限られたものではないことになるが、リアルタイムチャットの重圧からとっさに思いついたものである可能性もあり、判別がつかない。

4. 6 英語のぎこちなさ

1 : 文全体の繰返し (*I often go to Ippudo. - I often go to Ippudo, too.*)、2 : 句の繰返し (*did you went to Kyudai Festival? - Yes, I enjoyed Kyudai Festival.*)、3 : 日本語を引用符を使用せずそのまま使用、4 : 副詞類の位置、5 : 副詞の位置、6 : 形容詞句の位置 (*I agree that they go to strong school in baseball.*)、7 : ぎこちない受身、8 : 何でも *make* (*Was it difficult to make buildings?*)、9 : 同族目的語の誤り、10 : 2次述語とすべし、11 : 抽象名詞を所有形に、12 : *why*節のかわりに *that* 節、13 : 無理な構文、14 : 理解に時間がかかる、15 : 語の選択に難

これらはチャットだからというものではない。

4. 7 日本語からの干渉

日本語からの母語干渉によるミスがあるが、これは無知が原因なので、チャットがリアルタイムだからより誤りやすいということではないように思われる。

a) 和製英語 (*I think we should make game center.*)

b) 直訳

- 1: したいと思う (*Do you think that you want to play soccer in high school?*)、
 2: 目的地 (*It takes you to your purpose point at once.*)、3: はやい (*But airplane is earlier.*)、4: 行く (*But we can't go by p.m.12.*)、5: 今日は・・・だ (*Because today is Nihon series!!*)、6: どういう意味 (*What meaning?*)、
 7: 悪いのはお前だ (*Wrong is you!*)、8: しに行く (*Would you go to apologizing him with me?*)、9: 今から (*Let's apologize in earnest! - From now on?*)、
 10: なぜなら (*because 直後にカンマ*)、11: 教える (*We must teach children that he mustn't answer a stranger when he is spoken by one.*)、12: 受ける (*I receive a lot of lessons. For example English and Chinease.*)、13: のために (*So he went to Onigashima because of getting rid of demons.*)、14: 大事に (*I importantly use it.*)、15: によっては (*According to the place, the charge is free.*)、16: 知らない人 (*I think talking to a person who doesn't know is good.*)、
 17: 中をとって (*Let's take among and make it to eight days.*)、18: ブランドもの (*but famous brand's things are expensive.*)

c) その他

- 1: テイル=存在動詞を進行形に (*Before "Do", "What" is existing.*)、2: 「～に」+他動詞 (*But Taro approached to her.*)、3: quiet と silent、4: teacher (*My teacher, I want to take an examination for Q-shu university.*)、5: 「将来」 (*I think you will find a good partner future.*)、6: の頃から (*You don't change from when you were student.*)、7: 常識 (*In my home town, Docomo's cellphones only catch the radio wave. - I don't know today's cellphone has such function. - It's common sense.*)

誤解を招きそうな内容のもの、何の誤りか判別のつかないものもあったが、紙面等の都合で割愛した。

5 まとめ

リアルタイムで文字チャットを交わした場合に発生した英文の不具合の類別をはかり、またその中から即時的チャットであるからこそ生じやすいものを抜き出し、文字チャットを利用した英語対話演習授業での指導ポイントを探った。

参考文献：<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/index.htm> の「論文」を参照